

施設名	～地域も野菜も、育ててつながる居場所づくり～浜松市高台協働センター		所在地	浜松市中区和合町58番地の30
			電話番号	053-472-1468
所管部署	浜松市中区まちづくり推進課	HP	https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp	
		SNS	-	

○施設外観・事業風景



○施設概要

施設の沿革・年表		施設の運営で大切にしている考えなど(PRポイント等を含む)	
昭和63年4月 高台公民館設立 平成25年4月 高台協働センターに名称変更 平成31年3月 施設UD化		T:つながる A:あなたと地域 K:気軽に A:遊びにおいて D:どんな時でも A:アットホームな I: 居場所づくり そのために・・・世代間の交流を促進し、住民の連帯感・地域 コミュニティ意識の向上を図るとともに、生涯学習の充実を図 ります。 ・地域の特性を生かしたバラエティに富んだ講座の企画・運 営 ・地域の各種団体・ボランティア団体との連携 ・地域の小・中学校との連携 ・地域住民が参加したくなるイベントの定期的な開催	
市町人口	793,606人	施設対象人口	32,317人
建物設置年月日	昭和63年4月1日	開館日数 (前年度実績)	359日
運営主体	<input type="checkbox"/> 市町教育委員会	<input type="checkbox"/> 指定管理者 ()	
	<input checked="" type="checkbox"/> 市町首長部局	<input type="checkbox"/> その他 ()	
職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 8人	合計 25人
	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> ボランティア協力者 15人	
講座等開催数 (前年度実績)	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 67回	<input checked="" type="checkbox"/> その他 11回	合計 78回
	<input type="checkbox"/> 講演会・展示会等 0回		
来館者数 (前年度実績)	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 937人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館・サークル活動 79,313人	合計 80,870人
	<input type="checkbox"/> 講演会・展示会等 0人	<input checked="" type="checkbox"/> その他 620人	

○事業等の実施状況(『特色ある活動』であげた事業以外で2つ)

※令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響あり

区分	事業名	開催回数	延参加者数	区分	事業名	開催回数	延参加者数
<input checked="" type="checkbox"/> 主催 <input type="checkbox"/> 共催	高台地域学習支援ボランティア事業	6回	43人	<input checked="" type="checkbox"/> 主催 <input type="checkbox"/> 共催	自遊ひろば高台	9回	327人
事業概要(共催先も記載)				事業概要(共催先も記載)			
地域に居場所を求める声が寄せられ、子供たちを地域で育てる手伝いをしたいと考えるボランティアが集まり「イ・ミユル・キッズ・ラボ」を結成し、居場所づくりの方法の一つとして、学習支援活動を開始した。令和4年度よりボランティア団体が独自運営しながら毎月開催している。				新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、地域のつながりが希薄化している現状を踏まえ、協働センターをとり出して地域の公園(和地山公園)でワークショップを開催し、新たな住民交流の場とした。令和4年度も引き続き実施し、延べ327人の参加があった。			



施設名

～地域も野菜も、育ててつながる居場所づくり～浜松市高台協働センター

○特色ある事業

1. 事業名

育ててつながる!秘密の畑でコミュニティづくり

2. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

・新型コロナウイルスの影響で学校行事や子供会の活動が中止となり、特に体験活動が減ってしまった。
・協働センターの裏に畑があるが、過去数年活用されていなかった。
Solution! ➤感染リスクが屋内より減る屋外での事業に着目し、活用されていなかった畑事業を復活させることとした。作物を育て収穫するWithコロナのコミュニティ活動を展開することで、人と地域が繋がる「居場所」とした。

3. 取組内容(力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など)

イベントが主ではなく、一緒に作物を「育てる」「楽しむ」「交流する」循環型体験活動を実施し、作物を育てながら生まれるコミュニティを大切とする。畑を耕すところからボランティアと子供たちが一緒に行い、栽培ノウハウを地域へ還元することで持続可能な運営を目指す。

- ①「秘密の畑で芋ほり会」(令和2年度より事業開始)
- ②「体験!いずみっこ講座!!」(令和3年6月5日～12月5日)泉小学校との連携事業。
- ③「イミウトラックスラボ」(令和3年6月19日～令和4年1月15日)学習支援の参加者(小学生)を増やす目的として、学習会の後に畑の管理、草花の観察会、収穫会を開催。

4. 参加対象、参加者数(前年度実績)

参加対象	地域小学生とご家族	参加者数	57人
------	-----------	------	-----

5. 取組による成果や効果

・畑管理のために地域住民が定期的かつ気軽に協働センターに足を運んでもらえるようになったことで、協働センターが身近なところとなり、「居場所づくり」にもなった。また、これまで来館の少なかったファミリー層(特に父親たち)も来るようになった。また、「自分で育てて、食べる」体験を通して、食育にもつながった。

6. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

・コロナ禍においても屋外であれば、安心して活動を展開することができる。
・収穫が目的ではなく、作物を育てながら生まれるコミュニケーションが重要である。
・協働センターが主となって企画から運営まですべてを実施するのではなく、地域やボランティア団体との協働作業とすることで、今後も継続できる仕組み作りができた。



7. 今後の目標・展開、次の仕掛け・ビジョン

本市の特徴としてブラジルにルーツのある方が多いことから、ブラジルの食文化を学ぶため、外ヶ木のもとになるキャッサバを育てようと、ブラジル人農家と浜松学院大学に声をかけ、協力してもらえることとなった。そこで、農家×大学×協働センターで協働し、栽培を進めている。他国の食文化に触れ、学びや理解を深めるとともに、国籍に関係なく地域活動にも参加してもらえるような環境を地域で醸成したい。畑の活用を多文化交流のきっかけとし、さらに多くの方に協働センター運営に携わってもらう。